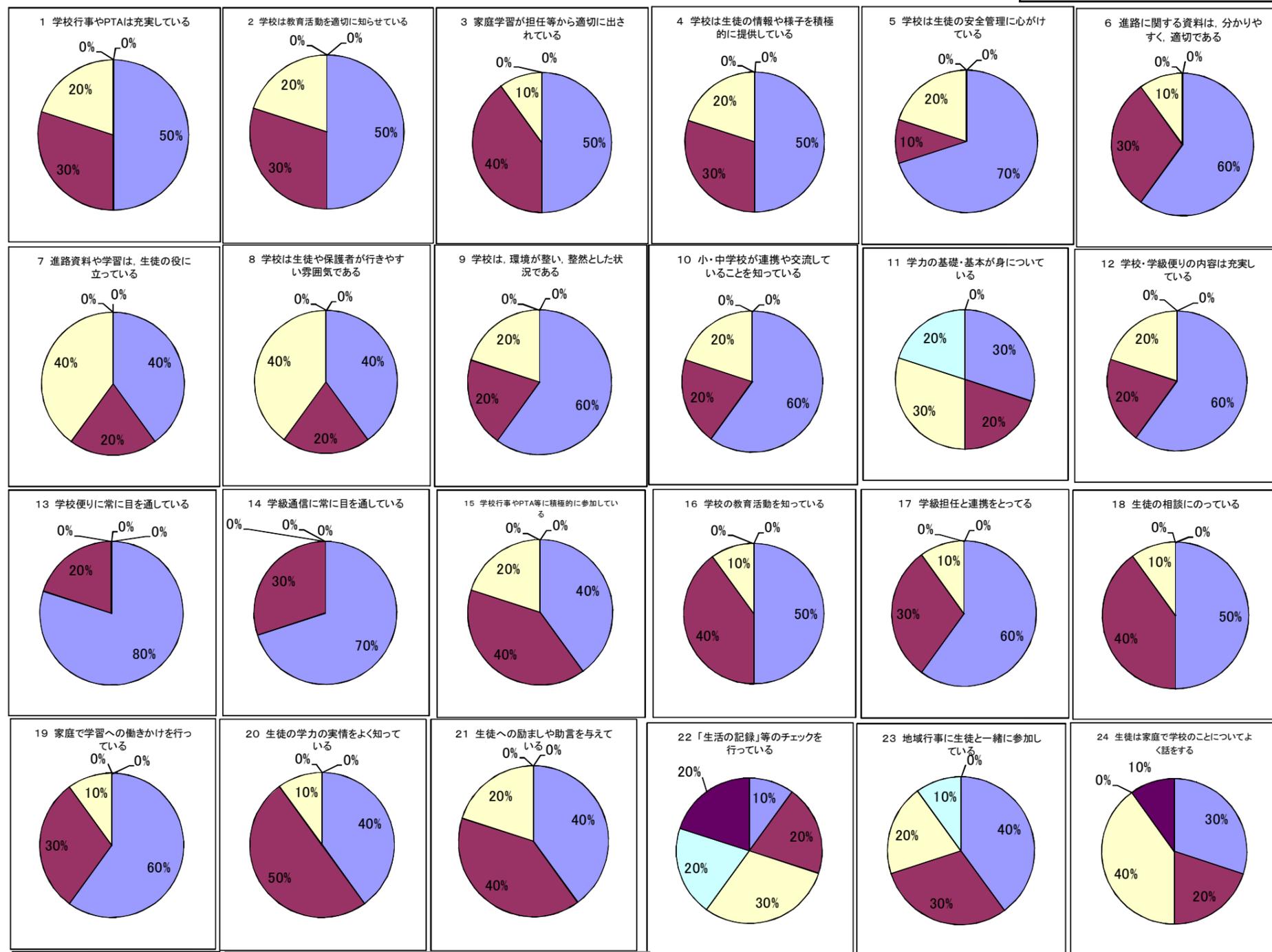
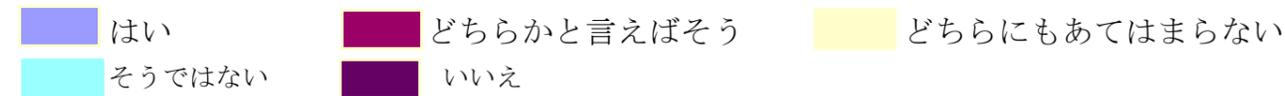


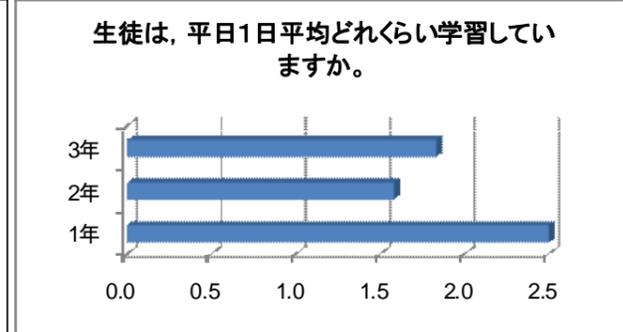
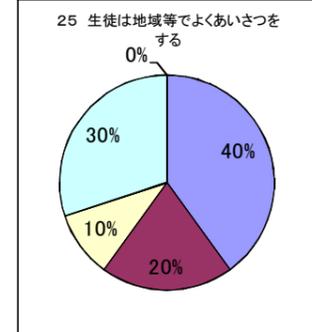
# 平成22年度1学期鹿島中学校 保護者による学校評価結果

今年度も、保護者向けの学校評価を実施しました。評価内容は、大きく分けて「親の学校に対する関心」「子供への関心」「子供の学力への関心」「学校の取組の妥当性」「その他」の五つがあります。今回は、「学校の取組の妥当性」についての結果を報告します。

- 回答方式「質問項目に対する回答5択の中から、自分にもっともふさわしい回答を選ぶ」
- 調査期間：平成22年7月7日(水)～7月15日(木)
- 回収率 約83% (10/12)



- 「学校の取組の妥当性」(1～12)
  - ほとんどの項目で、どちらかと言えばそうであるという回答を80%以上得ていることから、学校の取組が妥当であると保護者が判断していると考えられる。
  - 7の「進路資料や学習は生徒の役に立っているか」と8の「学校は生徒や保護者が行きやすい雰囲気ですか」は他の比べると低い。進路というイメージがあるので、一般的な情報や他県の情報も提供していく必要がある。また、実親だけでなく里親にも来てもらいやすい雰囲気や手立てを講じていく必要がある。
  - 11の「学力の基礎・基本が身についている」はどちらかと言えばそうであるという回答を50%しか得ていない。2学期は、個に応じた対応を取るなどして、「身についた」という実感を伴うような指導を行っていく必要がある。
- 「親の学校に対する関心」(13～16)
  - どの項目もどちらかと言えばそうであるという回答を80%以上得ていることから、本校の保護者は学校の教育についての関心が高いと言える。今後も、この状況を維持していくようにしていきたい。
- 「子供への関心」(17～19)
  - どの項目もどちらかと言えばそうであるという回答を80%以上得ていることから、本校の保護者は学校の教育についての関心が高いと言える。今後も、この状況を維持していくようにしていきたい。
- 「子供の学力への関心」(20～22)
  - 20・21はどちらかと言えばそうであるという回答を80%以上得ていることから、本校の保護者は学校の教育についての関心が高いと言える。今後も、この状況を維持していくようにしていきたい。
  - 22「生活の記録等のチェックを行っている」が低い結果となっている。生徒が見せない、日々の生活の中での忙しさ等が原因と考えられる。生徒への指導を徹底すると共に、見ることの価値や呼びかけを学校だよりや学級通信、PTA等で行ってほしい。
- 「その他」(23～25)
  - 23の「地域行事に生徒と一緒に参加している」が若干低い。早めの呼びかけを行ってほしい。
  - 24の「生徒は学校のことを家でよく話す」が低い。学校生活の魅力の欠如、思春期の特性、一緒に過ごす時間の現状等が原因ではないかと思われる。生活の記録等のチェックと絡めて、話しやすい雰囲気を作れるようにしていきたい。
  - 25の「生徒は地域等で欲あいきつをする」がかなり低い。地域の方をあまり知らない、子供の様子を適切に把握していない等が原因として考えられる。あいきつの価値を学校でも適切に指導してほしい。



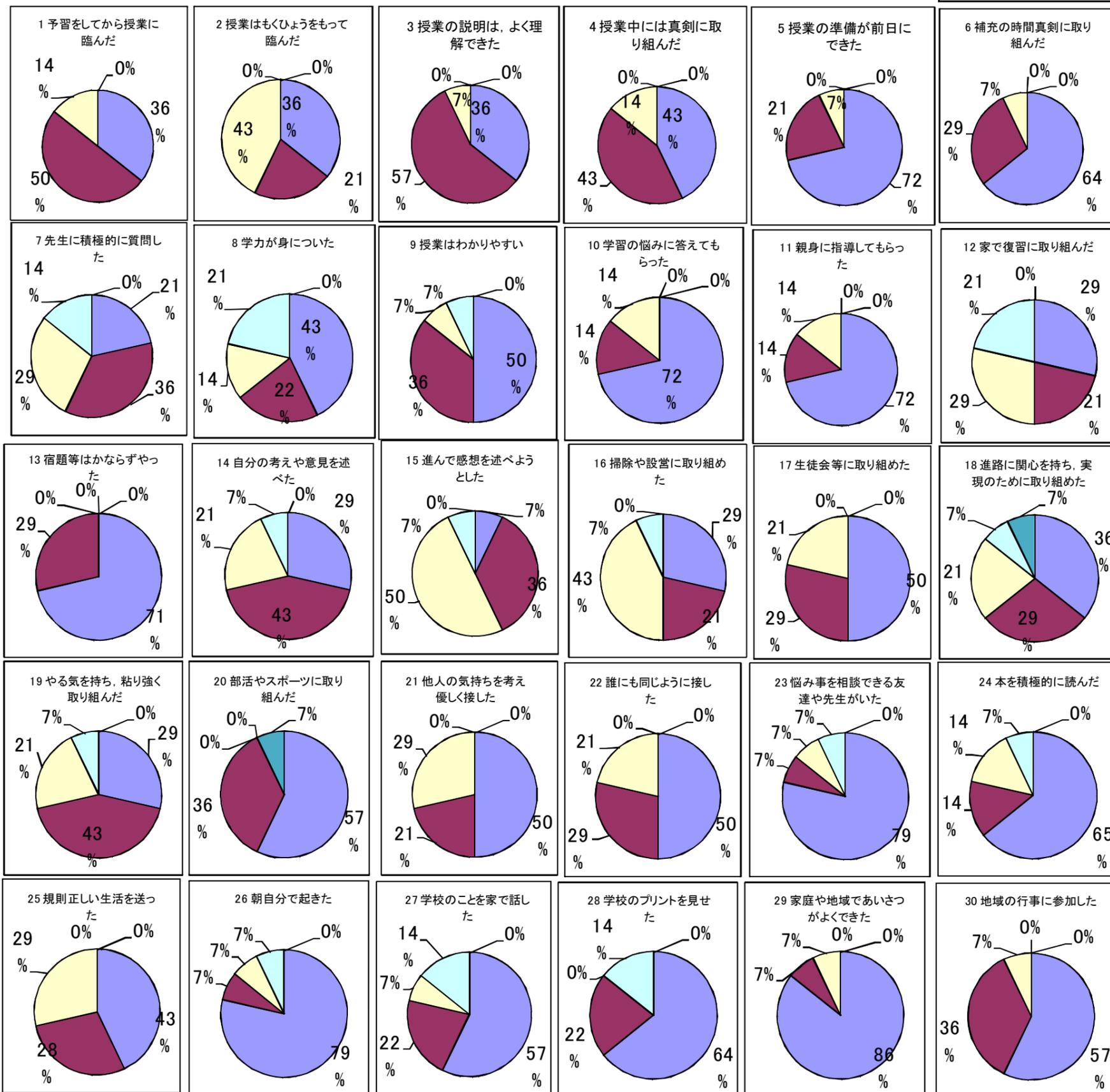
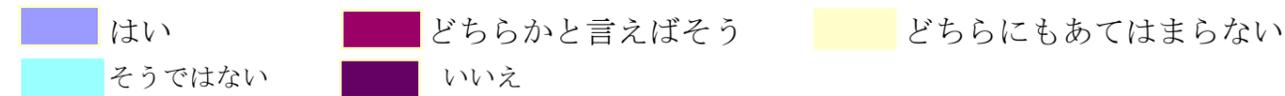
学習時間について

- 1年生が一番多い。3年生は、保護者と生徒の時間が異なっている。
- 3年生については、これから生徒自身が感じている程度の学習時間を実際に確保するために、放課後の補習を充実させていく。
- 他の学年については、随時自宅学習の時間を調査し、個別指導や個別課題を設定していきたい。

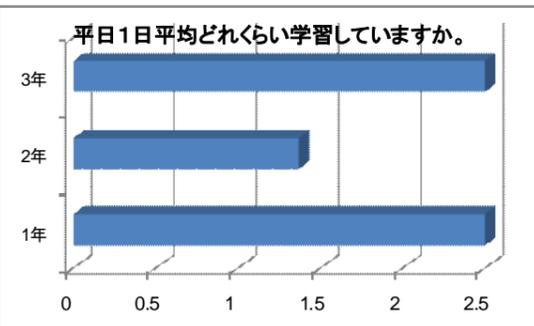
# 平成22年度1学期鹿島中学校 生徒による学校評価結果

今年度も、生徒向けの学校評価を実施しました。評価内容は、大きく分けて「学習への取組」「教師の取組」「家庭学習」「学習態度」「特別活動」「進路」「体力・気力」「徳育」「友人」「読書」「生活」「家庭でのコミュニケーション」「地域」があります。

- 回答方式「質問項目に対する回答5択の中から、自分にもっともふさわしい回答を選ぶ」
- 調査期間：平成22年7月6日(水)～7月12日(月)
- 回収率 約83% (13/13)



- 「学習への取組」(1～8)
  - 五つの項目で、どちらかと言えばそうであるという回答を80%以上得ていることから、生徒の学習への取組は高いと考えられる。
  - 2の「授業は目標をもって臨んだ」が若干低い。予習を活かして、何を身に付けるのかを考えさせていく必要がある。
  - 9が低い。授業残り5分や放課後に質問タイムを設定したり、宅習の中に質問コーナーを設けさせたりする。
- 「教師の取組」(9～11)
  - 三つの項目ともどちらかと言えばそうであるという回答を80%以上得ていることから、教師の学習に対する取組は有効であると考えられる。
  - 9にそうではないが若干見られる。個に応じた指導が必要だと言える。
  - 10・11については、3年生が低い。受検を前にした丁寧で、個に応じた指導を行っていく必要がある。
- 「家庭学習」(12・13)
  - 12が低い。13の宿題は必ずやったがほぼ100%のことから、宿題に追われて復習にまで手が回らなかったか、それ自身が副手になっていると感じていないかと考えられる。教師の明確な指示が必要である。
- 学習態度(14・15)
  - 14・15とも低い。そのような場を設定していく、生徒の発言を受容的に受け止める、生徒の発言で授業を組み立てるといった教師の手立てが必要である。
- 特別活動等(16・17)
  - 16が低い。掃除では指導の徹底や称賛を、学級設営では時間確保を行っていく。
- 進路(18)
  - 2年生が低い。「進路=受検」というイメージが強いと考えられる。その学年に応じた指導内容を再度吟味する必要がある。
- 体力気力(19・20)
  - 19が若干低い。主体的な目標をもたせる場を設定し、継続的な指導・評価を行い、結果や過程を称賛する機会を積極的に設定する必要がある。
- 徳育・友人・読書
  - 21・22の項目とも若干低い。生徒指導のアンケートと合わせた指導を行っていくこと、道徳の学習の充実を図る必要がある。23についてはどうではないと記入した生徒と周りの生徒のかかわりを活性化させていく必要がある。24については、2年生が低い。個に応じた指導を行っていくことが必要である。
- 生活(25・26)
  - 25が低い。これまで以上に保護者と連携を取って行く必要がある。26については、個に応じた指導を行っていくことが必要である。
- 家庭でのコミュニケーション(27・28)
  - 両項目ともそうではないと答えた生徒がいることから、個に応じた指導を行っていくことが必要である。
- 地域へのかかわり(29・30)
  - 29については評価が保護者の結果と一致していない。生徒はしている「つもり」になっていることが考えられる。相手に伝わるようなあいさつの仕方を指導する必要がある。



学習時間について

- 1・3年生が高く、2年生が低い。2年生には、どのような学習を行えばいいのかを、具体的に、個に応じた指導していく必要がある。
- 随時、自宅学習の時間を調査し、実態を基にした指導を行っていく